

2004年世界ハンズ・オン・ユニバース会議の報告

Global Hands-On Universe Conference, Networked Telescopes and the IVO Science, Education and Collaboration in the New Millennium

7月25日から31日まで、世界ハンズ・オン・ユニバース (GHO) の会議がロシアの古都サンクトペテルブルグのプルコボ天文台とサンクトペテルブルグ大学天文学研究所で開催されました。1830年代に造られたプルコボ天文台はサンクトペテルブルグの中心から南に20 kmほど離れた台地の上にあり、ロシア科学アカデミーの中央天文台でもあります。参加者は大学・天文台・科学博物館などの研究者・学芸員、小中高の教員などでした。参加国はロシア、スウェーデン、ポーランド、ドイツ、フランス、イギリス、モロッコ、アメリカ、チリ、パキスタン、ヴェトナム、中国、日本の13カ国で、日本からは、東京大学の半田利弘さんご夫妻、東京工業大学附属工業高校の小菅京さん、東京大学大学院生の佐藤祐介さんと私の5名が参加しました。

GHOは毎年開催地を換えて開かれ、各国のHOUの活動について交流が行われてきました。2004年の世界大会の行われた講堂は古い建物で、内部の柱や壁は見事な大理石と赤色のラバキビ花崗岩で造られ、壁の左側にコペルニクス、ガリレオ、ケプラー、ニュートンなどの大天文学者、右側の壁は残念ながら私の知らないロシアの歴代の天文学者、正面は左にマルクス、右にレーニンのレリーフで取り囲まれています。

会議は主催者の一人米国のカール・ペニーパーカー氏の司会で、プルコボ天文台のアレクサンダー・ステパノフ前台長の歓迎のあいさつからはじまりました。前台長は大の日本好きで、翌日、私を待っていたかのように、台長室に招き入れ、ひらがな・カタカナ・漢字の読み書きができますと嬉しそうに話して下さいました。そして表紙に「太陽表」と漢字で書かれた分厚いカタログを紹介して下さいました。書架には日本語の文献も多



プルコボ天文台の見学中の参加者

数置かれていました。

今回の世界大会では、各国の天文教育の現状報告、天文学の普及活動、天文台・大学と教育機関の連携、天文教育のためのソフトの開発、教育のためのリモート望遠鏡の開発などの紹介と各国のHOUの活動が報告されました。

私はFITS画像を使った教材の開発を目的にしたPAOFITS WG・グループのメンバーの一人として、国立天文台を中心に開発した画像解析ソフト「makali'i」の英語版の紹介を行いました。実際にブリンクの機能を使った小惑星の移動、さらにPAOFITS WGの開発した教材「球状星団のHR図を作成する」をFITS画像の測光から色等級図を作成するまでを実演しました。日本からの報告は半田さんが日本のHOUの取り組み、佐藤さんが都心の駅で大学生が観望会を開いてきた「天の川急便」、小菅さんは、高校生を中心に木星の衛星の軌道を求めるインターネットを利用した世界的な観測体制「ジュピタープロジェクト2004」の取り組みおよびサンクトペテルブルグ大学のコンピュータ学生実習室から東京の科学技術館の北の丸望遠鏡をリモートコントロールによる実演をされました。いずれの報告にも多くの質問があり、関心の高さがわかりました。

本田輝政 (同志社香里中学校・高等学校)